

# マツタケはきれい好き<sup>す</sup>

夏<sup>なつ</sup>がおわりに<sup>ちか</sup>近づくと、マツタケが売<sup>う</sup>られはじめます。

それらのマツタケは、どのような所<sup>ところ</sup>に生<sup>は</sup>えているのでしょうか。

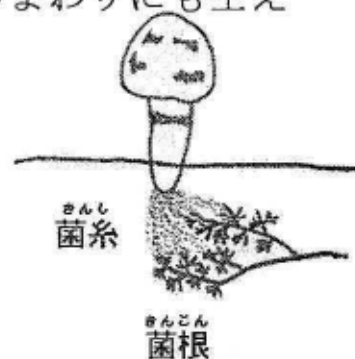


マツタケ



アカマツ

マツタケは、アカマツのまわりに生<sup>は</sup>えます。アカマツのほかに、カラマツやツガなどマツのなかまの木のまわりにも生<sup>は</sup>えます。



土の中では、マツタケの根もとから白く細い糸のような菌糸がのびています。菌糸は、アカマツの細くて若い根について、栄養をもらいます。マツタケの菌糸がついたアカマツの根（菌根）は、多くの根を出し、成長がよくなります。マツタケとアカマツは、いっしょに生きています。

マツタケは、落ち葉の少ない、やせた土地のアカマツ林に生えます。落ち葉がつもっていたり、土がこえていたり、草が多いと生きられません。まるで落ち葉をほうきではいたような所に生える、きれい好きなキノコです。きれい好きなわけは、落ち葉や草が多いとほかのキノコやカビなどが増え、その競争に負けてしまうからです。

今から50年ほど前までは、マツタケは日本でたくさんとれました。そのころ、煮炊きするには、まきや炭を使っていました。アカマツの落ち葉やかれ枝も集めて、もやしてしました。ところが今では、ガスや電気で煮炊きをするので、アカマツの落ち葉やかれ枝は、林につもったままになります。きれい好きなマツタケが生きられるアカマツ林は、落ち葉がつもりにくい所、山の尾根などにかぎられるようになりました。

(さかいなおこ)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)  
<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>